

たことがある原理についてまとめられている。ただ基本原理が羅列されているわけではなく、前の章で学んだことを活かして、次の原理を学ぶことができる構成となっており、終盤の事例を通した理解では行動支援計画の立案の仕方も学ぶことができる。初学者にありがちな誤りについても言及されており、既に応用行動分析を学んだことがある人でも、気づきを得られる内容である。

第2部は、「脱入門書！ より高度な臨床技法」であり、基本的な行動原理を踏まえ、教室や集団で活用することを想定した応用原理が紹介されている。個人の内面で生じている反応を理解するためのレスポナント反応の枠組みや、集団随伴性、観察学習、般化といったトピックを紹介している。応用行動分析の実践を「ほめて強化しているだけ」「シールをあげるなんて物でつっているだけ」といった偏った理解は時折みられるが、実際には児童生徒の様子を丁寧に観察し、科学的に裏付けられた多様な原理を活用することが、「よい指導」に必要なということが伝わる内容である。

第3部は、「現場での実装」である。この部では実際に集団単位で広く実践されているさまざまな有効な支援のプログラムやフレームワークが紹介されている。具体的には、「ポジティブ行動支援」「行動コンサルテーション」「ペアレント・トレーニング」「社会的妥当性」といったトピックである。本書の中ではあくまで概要を説明し、推薦図書で深く学ぶことが前提とされた内容である。

全体を通して本書は非常にわかりやすく応用行動分析の紹介がなされており、「専門書を読んで、とっつきにくいと感じてしまった」という実践家や初学者にとって有用だと感じた。なお、留意点として、著者は最初から順番に読み進めることの重要性を説明している。本書はあくまで専門的な原理を説明する内容となっており、基本原理から順番に学ぶことで現場に活かせる理解につながるため、是非最初から目を通してほしい。

ストーリーで学ぶABA

「特別支援学級」「通級」担任の専門性UPのために

三田地真実監修
河村優詞著

金剛出版、B5判 256頁、3,520円、2025年9月刊

(帝京大学) 野中舞子

本書は、学校現場で特別支援教育を担当する教員を主な対象とし、応用行動分析についてわかりやすく解説することを通して、日々の指導に役に立つ視点を学ぶことができる書籍である。専門的な内容を含んでいるが、その説明をエピソード形式で紹介し、事例を通した演習も豊富に含まれているため、すぐに指導に活かせる内容となっている。また、参考資料や動画も書籍内のQRコードを読み込むことで参照することができる。

本書は3部構成となっている。第1部は「行動と学習の基本原則」であり、応用行動分析を理解する上での基本となる原理の説明がなされている。オペラント行動の定義や、強化子・弱化学子・随伴性といった、応用行動分析を一度学んだことがある人は聞い